

福岡県における観光の地域構造

横山 秀司

1. はじめに

平成7年、福岡県の観光入込客は過去最高の約7,222万人を記録した。福岡県では福岡ドーム（平成7年入込1,100万人）、ベイサイドプレイス博多埠頭（同340万人）、スペースワールド（同219万人）、マリンワールド（同127万人）、門司港レトロ（同107万人）など都市的観光施設、テーマパークが多くの日帰り観光客を集めており、これにより九州最大の観光入込県となっている。しかし、県内には火山地域特有の山岳・湖沼などの景勝地やそれに伴う温泉地がなく、また特Aとして評価される自然的・文化的観光資源も存在しない（溝尾他，1975）ので、九州最大の観光県としては、観光資源的にはややスケールが小さいと言わざるをえない。しかしながら、各市町村では自然的資源や地場産品を活かした観光地づくり、歴史的町並みの復元、石炭産業跡地の観光地化などが行われており、観光による地域おこしが展開している。本稿では、「平成7年・福岡県入込客推計調査」（福岡県商工部通商観光課，1997）の資料に基づいて各市町村の観光実態を分析し、福岡県の観光の地域構造を明らかにしたい。

2. 福岡県の観光資源の特徴とその評価

2-1 自然観光資源

福岡県は筑後川の大きな沖積平野の他には、遠賀川下流の沖積平野、福岡市街地の一部をなす那珂川の沖積平野などが目立つ程度で、県土の大部分は丘陵・山地よりなる。

山地の標高は、高いところでも900~1,200mにすぎない。地質は主に古生代から中生代の岩石からなるが、英彦山周辺には新第三紀後半から第四期前半の火山岩が分布する。県内の主要な山地では、背振山地の雷山(955m)や背振山(1,055m)、古処・馬見山地の古処山(860m)、英彦山系の英彦山(1,200m)、釈迦岳(844m)などは登山道が整備され、県内の登山コースとして人気がある。特に英彦山は輝石安山岩が尖峰をなした独特の山容を呈し、それらが修験者の信仰・修行の地とされた歴史をもつことから、今日でも多くの参詣客・登山客を集めている。また、遠賀川右岸の福智山地の一部には石灰岩が分布し、カルスト地形が形成されているが、なかでも標高400~600mの平尾台には、羊群が草を食んでいるような光景をなすカレンフェルト(羊群原)あるいはドリーネ、さらには千仏鍾乳洞など特異な地形が発達し、これらカルスト地形が観光資源となって多くの観光客を集めている。その他、北九州市八幡の背後の皿倉山(622m)にはケーブルカーが敷設され、北九州工業地帯や響灘の展望の場として利用されている。また各地の山間地の溪流沿いには夏季には多くのキャンプ場が開設されている。

福岡の山地は断層山地を形成しているものが多く、山麓には断層線が走っている。断層線沿いにはしばしば温泉・鉱泉が湧出することが知られ

ているが(岡山, 1929), ここでもそれに起因すると思われる温泉地が分布する。例えば, 活断層として認定されている三郡山地の東をほぼ南北に走る西山断層沿いには脇田温泉(温泉旅館5軒)があり, その南延長線上の飯塚市には伊川温泉(1軒)がある。西山断層と共役関係にある北東-南西方向の断層沿いには古賀町の薬王寺温泉(3軒)がある。古処・馬見山地の南限も断層と推定されているが, その付近には福岡県最大の原鶴温泉(23軒)や筑後川温泉(7軒)・吉井温泉(3軒)が筑後川沿いに, また宝珠山村には千代丸温泉(1軒)が立地している。なおこれら前3温泉は水縄山地北縁の水縄断層とも関係する疑いもある。福智山地の西縁を走る黒崎・香春断層の南部には香春町の柿下温泉(1軒)がある。さらに, 福岡市内を通る警固活断層沿いには博多温泉(3軒), 筑紫野市の二日市温泉(6軒)が存在する。その他, 筑後市には船小屋温泉(5軒), 瀬高町には新船小屋温泉(3軒)がある。

福岡県の北部海岸は, 一部では沈降海岸の様相を呈して岩石海岸(磯)が発達し, 大島, 相ノ島, 能古島, 玄海島などの島々, トンボロ(陸繋砂州)で結ばれた志賀島などがあり, 玄海国定公園に指定されている。これらの磯や島は釣り場として賑わっている。一方では, 新松原海岸, さつき松原海岸, 勝浦浜, 津屋崎海岸, 生の松原のような砂浜海岸も発達し, 海水浴場, ドライブコースとなっている。また, 糸島半島には茶屋ノ大門を代表とする玄武岩の柱状節理が発達した海食洞門も見られる。

2-2 文化観光資源

文化観光資源としては, 史跡, 文化財, 社寺, 庭園, 近代的建造物, 産業施設などの他, 各種の観光施設(テーマパーク), スポーツ施設もこれに含まれる。

福岡県には縄文・弥生・古墳時代の遺跡の他、太宰府天満宮、宗像大社、久留米の水天宮などの社寺があり、国指定史跡は66を数え、奈良県、京都府の次について全国第3位の数となっている（山村，1995，63頁）。

島根県の津和野や山口県萩市のように歴史的町並み保存・再生によって観光地化したところが近年各地で見られるが、県内には甘木町の秋月地区、吉井町の白壁の町並みなどがある。さらに門司港レトロは明治・大正期に建設された門司港駅や洋館を修復し、観光資源として活かしている。

福岡県でとりわけ多くの観光客を集めているのは、北九州市のスペース・ワールド、福岡市の海の中道・マリンワールド、ベイサイドプレイス博多埠頭、福岡ドーム、大牟田市のネイブルランドなど都市的観光施設、テーマパークである。なお、スペースワールドは平成2年に新日鉄の工場跡地に、ネイブルランドは平成7年に三池炭坑施設跡地に開設されたものである。

ゴルフ場は県内には平成8年10月現在、52カ所あり（ゴルフダイジェスト社調べ）、九州第1のゴルフ場県となっている。人工スキー場は前原市に一カ所ある。

なお、筑後川デルタに立地する柳川市での川下り、大牟田市の石炭産業科学館、田川市の石炭資料館などは福岡県における特徴的観光資源である。

2-3 観光資源の評価

観光資源は特A、A、B、Cの4クラスにランク付けされることがあるが（溝尾他，1975）、福岡県内の観光資源は特Aに該当するものはなく、Aクラスは柳川水郷風景、博多どんたくのみであり、Bクラスに志賀島、和布刈神事、太宰府天満宮、Cクラスには皿倉山、和布刈公園が入っている。したがって、1970年代、福岡県内には全国レベルで知られた観光地は、福

岡市、柳川市など非常に限定されていたということになる。これは、1995年秋に旅行会社が企画した九州観光のパッケージツアーにおいて、福岡県の観光地としては柳川、太宰府天満宮、そしてスペースワールドしか周遊コースに入っていない（塩田、1995）こと、また、平成7年に県外からの入込客が県内客より上回ったのは福岡市と柳川市だけであったことから裏付けされる。テーマパークを除けば、県内の観光資源の評価は、今日でも大きな変化はないものと思われる。ちなみに九州で特Aにランクされた観光資源は阿蘇山、日南海岸、屋久島杉林、屋久島だけである。

さて、図1は福岡県および各市町村の資料をもとに作成した、主な観光施設および観光目的別の動態状況である。資料は平成7年を使用し、入込客1万人以上のものを取り上げた。また、指数は平成3年を100としたが、平成3年以後に開業した施設はその年を100とした。

平成7年に100万人以上の入込があったのは、福岡ドームの1,100万人、ベイサイドプレイス博多埠頭の340万人、スペースワールドの219万人、マリワールドの127万人、門司港レトロの107万人などテーマパークや都市的観光施設の他、太宰府天満宮の627万人、宮地嶽神社の172万人、宗像大社の150万人、篠栗霊場の100万人などの社寺であった。ベイサイドプレイス博多埠頭の指数は98と大体横這いであるのに対し、スペースワールドは指数132、マリワールドは平成5年の91万から平成7年には127万人（指数140）に増大しており、テーマパークの好調が見られる。

50～100万人の入込があったのは、施設では福岡美術館、福岡市動物園、海の中道海浜公園、宗像ユリックス（スポーツと文化の総合施設）、篠栗霊場の南蔵院、久留米の水天宮などにすぎない。指数は南蔵院を除き100未満であった。

50万人未満の施設等の動向では、表1が示すように、ハイキング・登山

図1 福岡県の観光資源

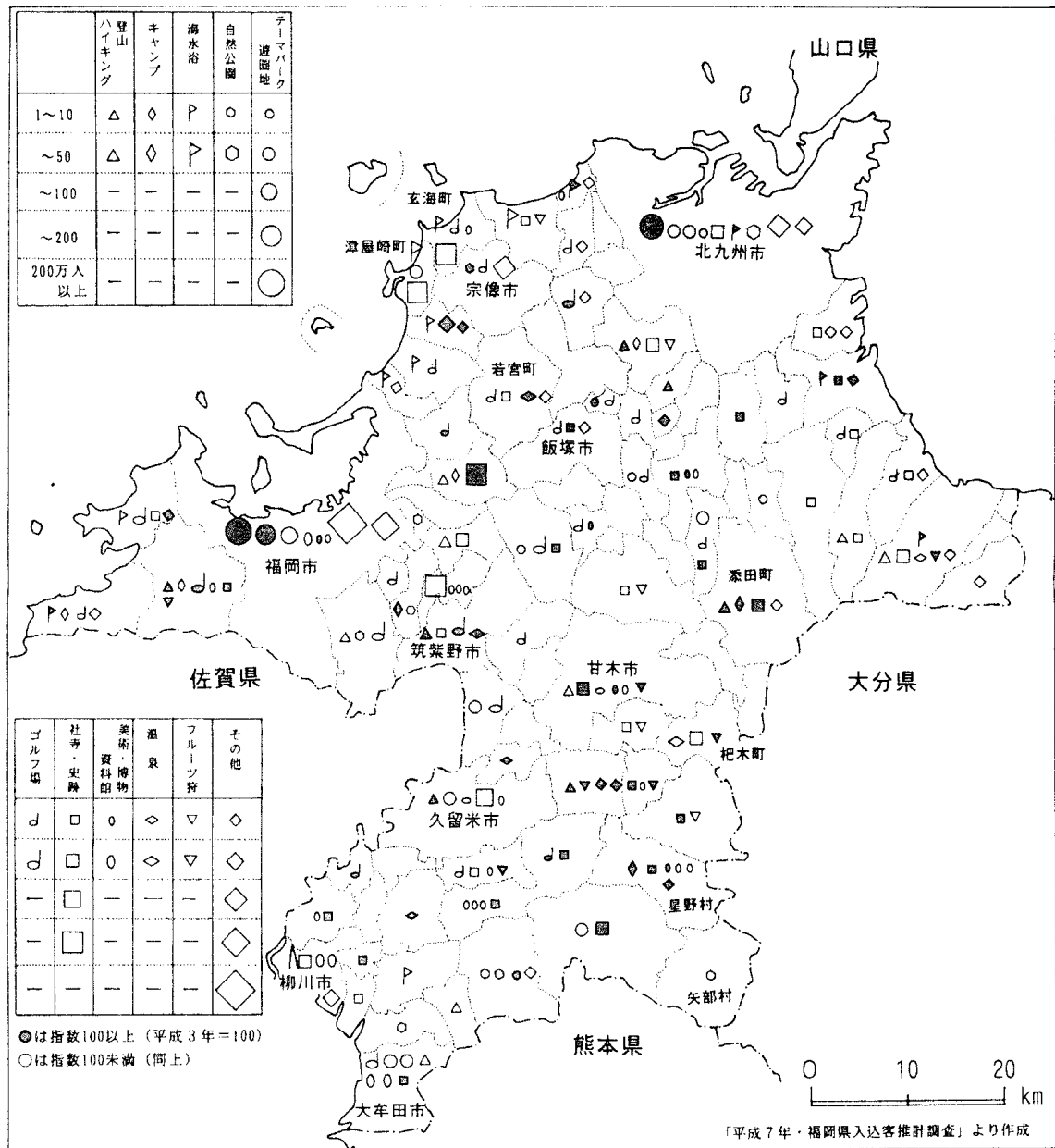


表1. 福岡県の目的別入込客

	一般行楽	祭・行事	社寺・文化史跡参拝見	ハイキング登山	海水浴	キャンプ	釣・観光漁業	フルーツ	ゴルフ	修学旅行	その他	合計
平成7年入込数(千人)	36,440	12,347	14,191	1,416	694	357	456	490	2,617	535	2,676	72,219
指数 平成3年=100	123	120	83	100	71	104	69	110	103	120	125	109

「平成7年・福岡県入込客推計調査」

はほぼ横這いであるが、キャンプは若干の増加（指数104）を示している。キャンプ場は夏休み中のみ営業し、テントにバンガローという従来型は敬遠され、星野村の池の山キャンプ場（指数147）のように水洗トイレやシャワーなど設備の整ったキャンプ場、あるいは通年型、オートキャンプ対応型の人気が高まってきている。

年間数万人程度の利用客のある海水浴場は、玄界灘や響灘に面した町村では一部を除いて減少しているが、周防灘に面した海水浴場は若干の増加を示している。県全体では、海水浴は平成3年の98万人から平成7年には69万人まで落ち込んでいる。これは、海の家施設の「昔のよしず張りのイメージを継承する、飯場のプレハブ的な脱衣所兼休憩所からいつになっても脱皮できない」（溝尾，1994，22頁）ところに原因があろう。

資料館等文化施設では、太宰府の九州歴史資料館（指数67）、宗像大社神宝館（同56）、三池カルタ記念館（同42）、柳川市の北原白秋生家（同74）、大川市の古賀政男記念館（同72）、豊前市の求菩提資料館（同37）など多くが入り込み客を落としている。このような記念館・資料館は、開館当時は物珍しさもあって近在からの多くの入込客を集めるが、やがてその数は減少していく傾向にある。その中であって、甘木市の甘木水の文化村（同267）、田川市の石炭資料館（同144）などはプラスになっている。

温泉地では脇田温泉、二日市温泉などは入込客の増加が見られるが、これは脇田温泉に平成5年にオープンした「湯乃禅」（13種類の露天風呂をもつ温泉施設。平成8年度には約16万人の利用客があった）、二日市温泉のバーデンハウス（ドイツの温泉保養地にあるローマ風呂を模した温泉施設）のような日帰り入湯客を対象とした施設の入込増を反映したものと思われる。

さらに、甘木市、杷木町、朝倉町、田主丸町、浮羽町、嘉穂町、岡垣町

などで行われているフルーツ狩り（ブドウ、ナシ、リンゴ）は、入込客の若干の増加（指数110）がみられる。中でも、田主丸町のフルーツ狩りには約15万人の集客があり、町内の巨峰ワイン工場も約6.4万人を集め、増加傾向にある。また、指数136と伸びのみられる嘉穂町は「歴史とフルーツの郷土」をスローガンとした町づくりを展開させており、「九州リンゴ村祭り」を開催するなど観光農業に力を入れた結果と思われる。さらに、宗像市の正助ふるさと村は、田植え、稲刈り、芋掘りなどの体験農園の他、市民農園なども併設した一種の農業公園であり、平成5年のオープン以来着実な伸びを示している（指数160）。このような観光農業・体験農業は、近年、都市住民によって再評価されているとみなすことができる。

3. 市町村別の観光動向

3-1 観光入込客の動向

平成7年に福岡県の観光入込客は、過去最高の7,222万人に達した。表2のように、九州8県の中では最大の入込客である。これは、100万都市福岡市と北九州市を擁し、前述の都市的観光施設やテーマパークが好調であり、毎年200万人の見物客を集める「博多どんたく」、600万人以上の参詣客のある太宰府天満宮などに支えられた結果である。しかし、過去5年の伸び率で見ると、ハウステンボスの入込増の見られる長崎県、離島ブームにのった鹿児島県の117、阿蘇や小国の温泉地が好評の熊本県の114、温泉と陶磁器産業を観光の核とした佐賀県の112に次いで、福岡県は第5位(109)である。

図2は、平成7年の観光入込客数と宿泊者の割合を示したものである。同年に1,000万人以上の入込客があったのは福岡市(1,455万人)、北九州市

表2 九州各県の観光入込客推移

	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
福岡県	6,607 100	6,938 105	6,951 105	7,084 107	7,222 109
佐賀県	2,648 100	2,663 101	2,774 105	2,818 106	2,971 112
長崎県	2,499 100	2,811 112	2,839 114	2,917 117	2,926 117
熊本県	3,821 100	3,978 104	3,993 105	4,219 110	4,345 114
大分県	4,888 100	4,837 99	4,520 92	4,680 96	4,768 98
宮崎県	1,123 100	1,145 102	1,103 98	1,145 102	1,190 106
鹿児島県	917 100	901 98	905 99	809 88	1,075 117
沖縄県	346 100	360 104	368 106	362 105	373 108

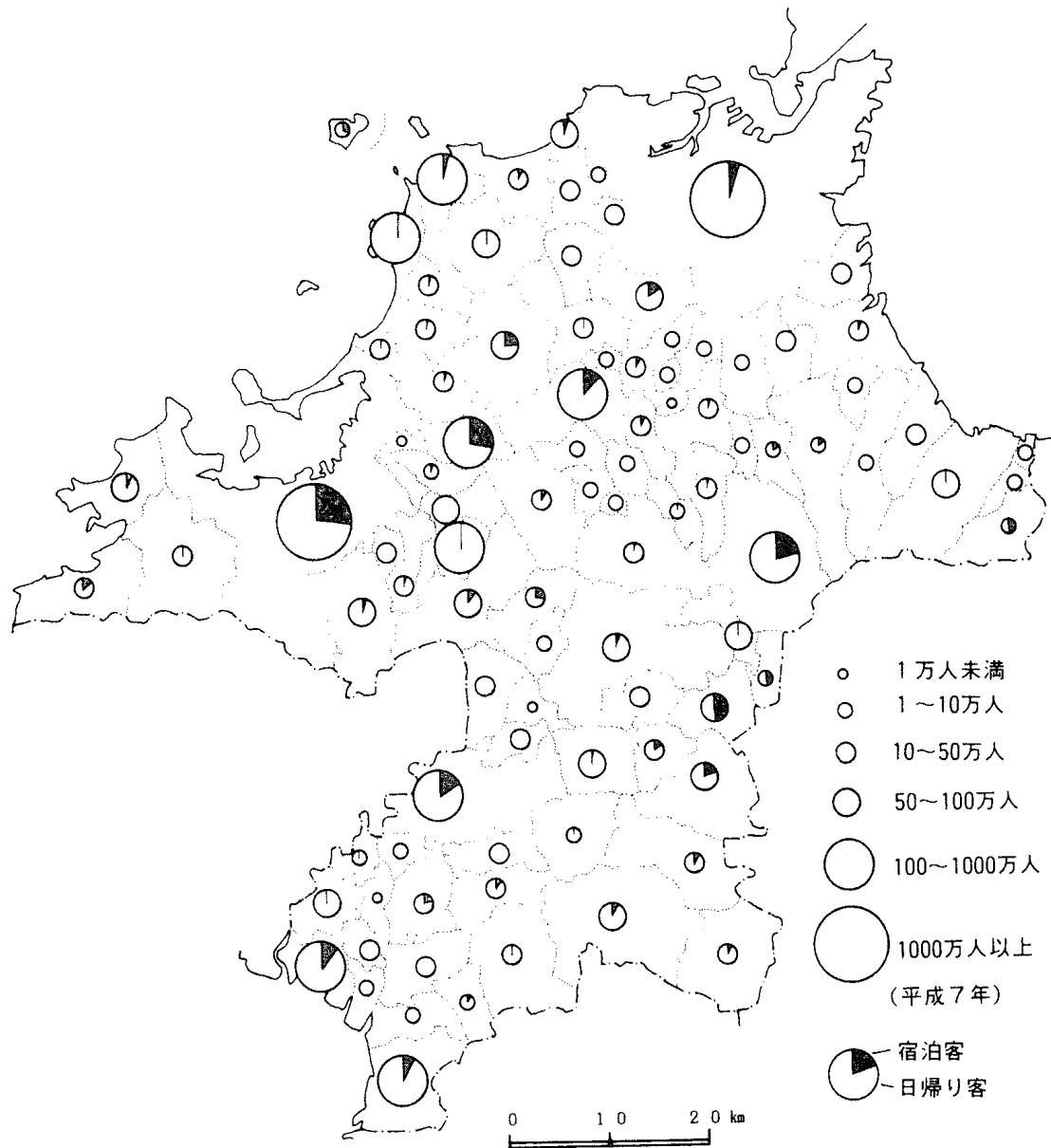
上段：入込客数（万人）

下段：指数（平成3年=100）

「九州観光要覧」（九州運輸局企画部）による

(1,302万人)の2市のみであり、以下100万人以上の入込があったのは、太宰府市(627万人)、久留米市(324万人)、津屋崎町(249万人)、玄海町(248万人)、大牟田市(239万人)、篠栗町(124万人)、添田町(118万人)、柳川市(110万人)、若宮町(114万人)であった。これらは都市型観光地、宗教観光地をもつ市町村が大部分であるが、添田町、柳川市、若宮町はそれとは異なる。添田町は英彦山神宮の参詣客の他に英彦山登山が26万人に達している。柳川市はクリークでの川下りの他、白秋生家、御花・松濤園など

図2 福岡県の入込客

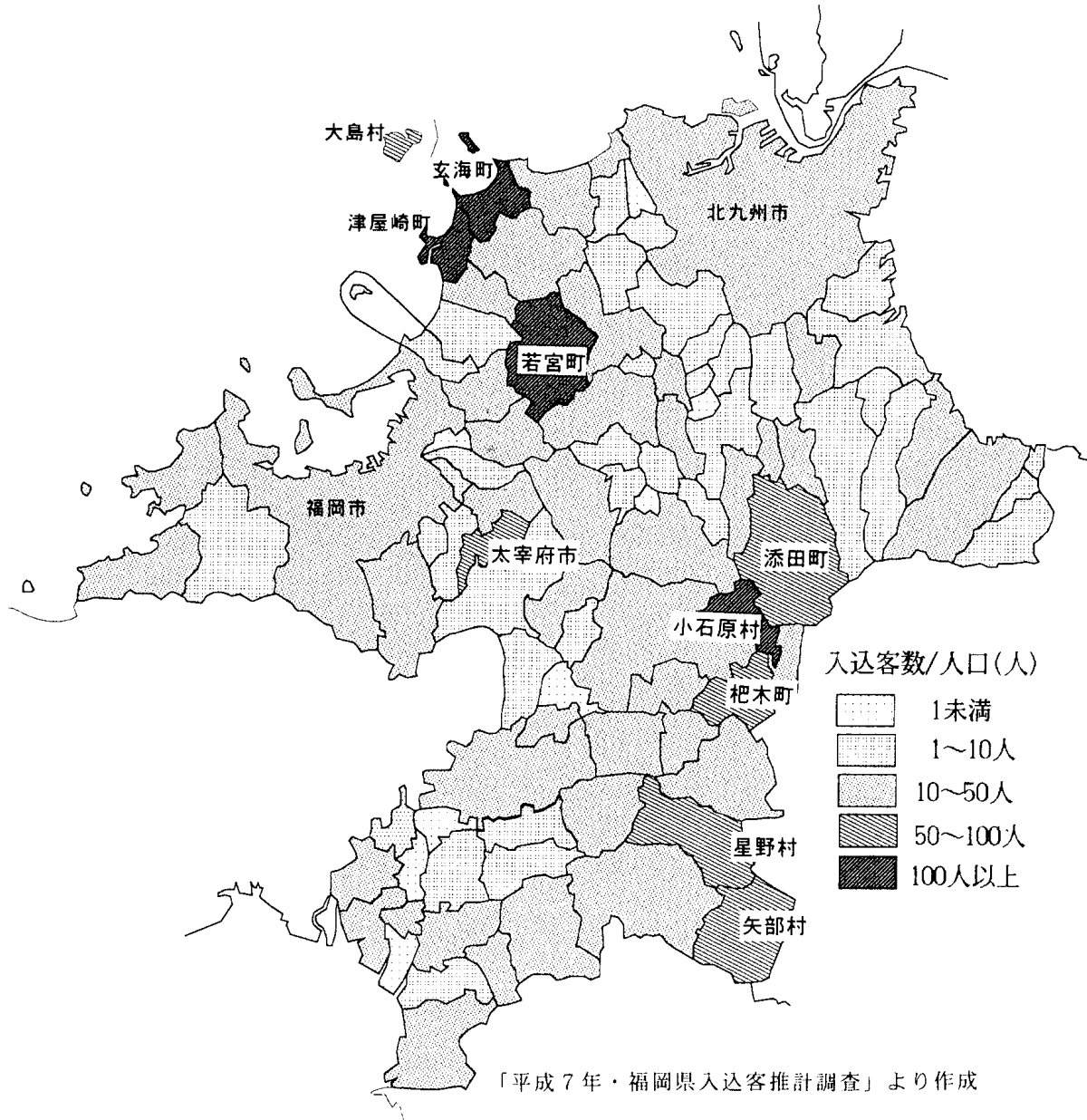


「平成7年・福岡県入込客推計調査」より作成

がそれぞれ20～30万の集客をしている。若宮町は脇田温泉の28万、地場産品販売を主とするドリームホープ若宮が約60万人となっている。

一般的には、人口規模が大きい程、入込客数や宿泊客数が大きくなる傾向がある。そこで、入込客数や宿泊客数を地域人口で割り、住民1人当たりの入込者・宿泊者で観光集積度 (Mohr, 1992) をみることにより、地域観光の性格を浮き彫りにすることができる。図3は入込客に関する観光集

図3 福岡県観光集積度（入込客）



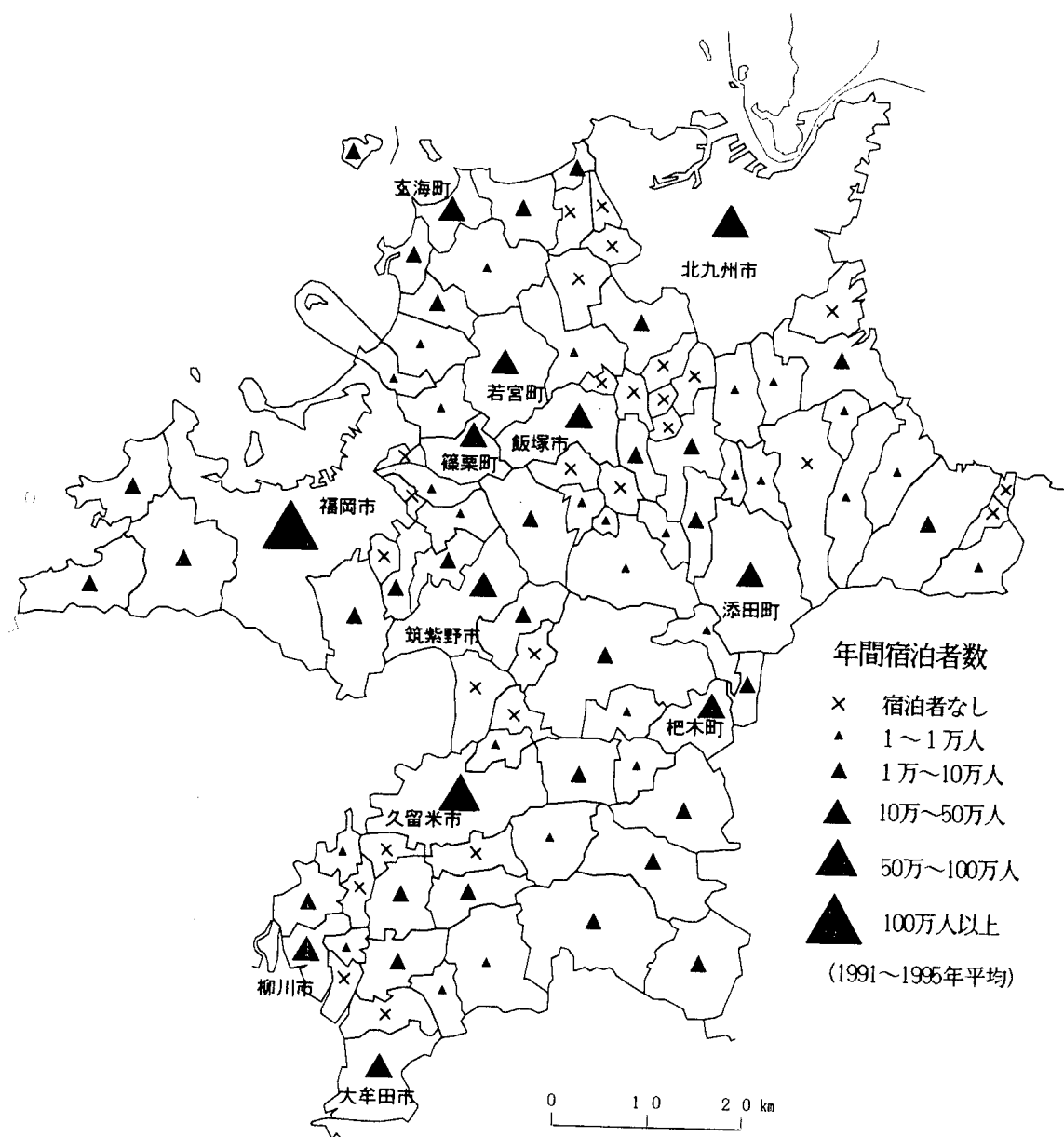
積度であるが、これによれば、最大は小石原村の427人、次いで宗像大社のある玄海町の272人、宮地嶽神社のある津屋崎町の177人、脇田温泉のある若宮町の111人、原鶴温泉のある杷木町の98人、その他、星野村の92人、太宰府市の96人、添田町の85人、大島村の70人、矢部村の60人となる。小石原村がこのような高い数字となるのは、人口1,321人の小さな村であるが、村内には小石原焼の窯元が約50軒あり、春と秋に開催される民陶むら祭に

は約20万人の客で賑わうほか、年間55万人の入込客があるなど、陶器産業が村の重要な観光資源になっているからである。また大島村は釣り客などを主体とした入込客数は6.5万人と多くはないが、村人口が917人と非常に少ないことによる。星野村は池の山公園、星の文化館、茶の文化館、星の民芸館など観光施設造りを進めており、矢部川の源流部に位置する矢部村は、山村の自然と民俗を活かした柚の里溪流公園内にロッジ風の「ソマリアンハウス」を開設し、柚の里特性の創作フランス料理を提供しているほか福岡市の天神にもアンテナショップ「レストラン・ソマリアン」を出すなど積極的な観光化を進めている結果の現れである。一方、福岡市や北九州市などの大都市は、地域人口が多いのでそれぞれ11人、12人と低い値になる。

3-2 観光宿泊客の動向

さて、図2から、観光入込客に対する宿泊者の割合をみると、杷木町の48%、大平村の45%、宝珠山村の45%、篠栗町と大島村の28%、福岡市の27%、夜須町の26%、若宮町の23%、添田町の21%などが高い値となっている。原鶴温泉がある杷木町、脇田温泉のある若宮町、篠栗霊場のある篠栗町、英彦山の参詣客と登山客を集める添田町は観光地化された宿泊観光地として位置づけられる。大平村、宝珠山村、大島村、夜須町などの人口規模の小さな町村が高い値を示しているのは、町村内に日帰り観光地や施設に乏しく、多くが宿泊を目的とした入込者であるという特徴をもつ。例えば、入込客が2万人と少ない大平村では、社会研修施設である「県立ふれあいの家」とそれに併設されたログハウスの宿泊客が9千人に上ったことによる。夜須町の場合は「国立夜須高原少年自然の家」による宿泊客である。宝珠山村は岩屋神社周辺の2軒の旅館（内1軒は千代丸温泉）と

図4 福岡県の年間宿泊者数

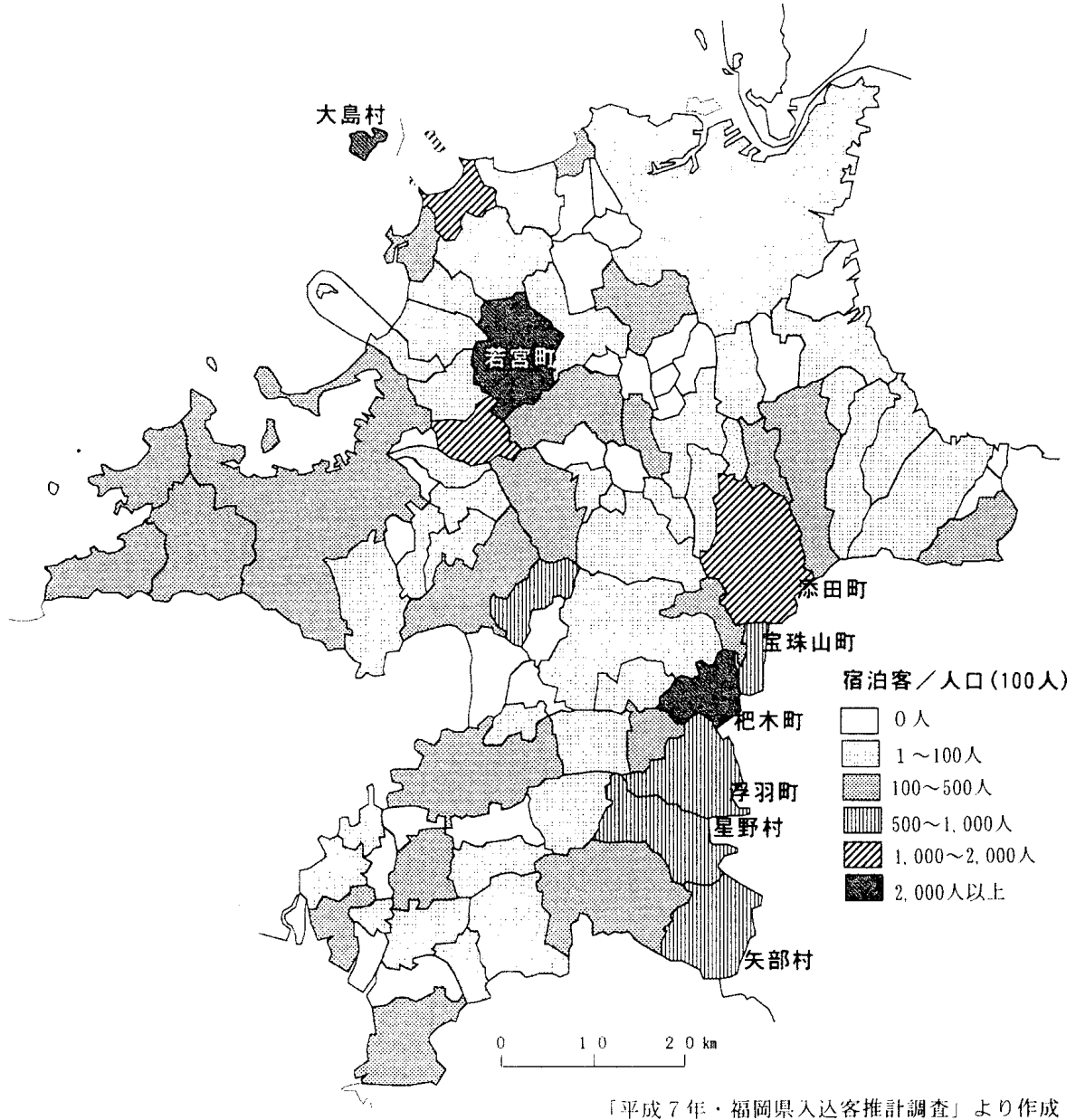


「平成7年・福岡県入込客推計調査」より作成

キャンプ場などの宿泊客（約1万人）である。ただし、大島村は離島村であるので、村外客の多くは宿泊（約1.8万人）を伴うことになる。

次に、宿泊者の実数を見てみよう（図4。ただし、ここでは平成3年から7年までの平均の値をとった）。100万人を超えるのは福岡市の370万人だけであり、50万人以上は北九州市（60万）と久留米市（54万）、10万人以上は杷木町（37万）、篠栗町（35万）、若宮町（25万）、添田町（24万）、大牟

図5 福岡県の観光集積度（宿泊者）



田市 (18万), 玄海町 (11万), 飯塚市 (11万), 筑紫野市 (11万), 柳川市 (10万) などである。これらは, すでに述べてきたように, 地方の中心的都市ないしは観光地・温泉施設をもつ市町である。ただし, 柳川市はAクラスに評価される観光資源をもった市であるが, 宿泊者はそれ程多くない。一方, 宿泊なしあるいは1万人以下の市町村, 換言すれば宿泊観光施設に乏しいかあるいは欠如する市町村は, 遠賀川流域の旧筑豊炭田地域, 筑後

川の中下流部の穀倉地帯，および福岡市の東外縁の都市化進行町村に広がっている。

さらに，宿泊者に関する観光集積度（人口100人当たりの宿泊者数）でみると（図5），杷木町の4,060人，大島村の2,923人，若宮町の2,413人となり，次いで添田町の1,758人，篠栗町の1,335人，玄海町の1,277人と続く。さらに夜須町，宝珠山村，浮羽町，矢部村，星野村が500人以上となる。ここでも，温泉地をもつ杷木町，若宮町，浮羽町（筑後川温泉）が高い数字となって，宿泊型観光地の特徴を表している。離島の大島村も宿泊型の観光地として位置づけられる。その他，人口規模の小さな添田町，星野村，矢部村は，山地の自然や文化を生かした宿泊観光設備の充実に力を入れた観光町村としての特徴がこの図に現れたと言える。例えば，添田町には国民宿舎の他に林業構造改善事業によって整備された「森の家」，平成6年秋には温泉施設「しゃくなげ荘」を開設させるなど，重要な観光資源である英彦山を核とした観光戦略を展開している。星野村は池の山荘，池の山キャンプ場などの施設，矢部村は杣の里溪流公園内にロッジ風の「ソマリアンハウス」を開設し，滞在施設の充実に進めている。

4. まとめ

「平成7年・福岡県入込客推計調査」および各市町村より提供された個別資料を参考にしながら，福岡県の観光資源および観光客動態の特徴を分析した結果，以下のようにまとめることができる。

福岡県では，福岡市，北九州市のように都市的観光施設・テーマパークに1,000万人以上の入込客のある大都市観光地，飯塚市，久留米市，大牟田市のように各種の観光資源が混在した入込客100～300万程度の中都市観光

地、太宰府市、玄海町、津屋崎町、篠栗町のような100万以上の参詣客を集める宗教観光地、若宮町、杷木町のような温泉観光地、添田町、星野村、矢部村のような山地観光地に分類することが可能である。一方、遠賀川流域の旧筑豊炭田地域、筑後川の中下流部の穀倉地帯、および福岡市東外縁の都市化進行地域は観光地化の遅れた地域とみなされる。

今後の福岡県の観光開発にとっては、完全週休2日制の実施に伴い、県内の家族や小グループを受け入れる週末型観光地の整備が必要になろう。それには、添田町、星野村、矢部村の好事例にみられるような山地資源を活用したロッジ、オートキャンプ場などの滞在型施設、玄界灘・響灘・周防灘に面した海岸地域にあっては、旧態依然とした海水浴場から脱し、春から秋までマリンスポーツとして利用できる近代的施設およびペンション・ホテルなど魅力ある海浜滞在型施設の整備が求められよう。さらに、ドイツのクラインガルテン（荏開津・津端，1987）のような、週末に家族や夫婦で楽しめる都市近郊の市民農園の需要も増大するものと思われる。

<参考文献>

- 荏開津典生・津端修一編著（1987）：『市民農園—クラインガルテンの提唱』，家の光協会，255頁。
- 岡山俊雄（1929）：甲斐国地蔵・鳳凰山下の逆断層。地理学評論，第5巻，第11号，949～960。
- 塩田正志（1995）：地方における観光資源の新しい捉え方。経済学論集（宮崎産業経営大学），第3巻，第2号，167～184。
- 福岡県商工部通商観光課（1997）：『平成7年・福岡県入込客推計調査』，45頁。
- 溝尾良隆（1994）：『観光を読む』，古今書院，206頁。
- 溝尾良隆・市原洋右・渡辺貴介・毛塚宏（1975）：多次元解析による観光資源の評価。地理学評論，第48巻，第10号，649～711。
- 山村順次（1995）：『新観光地理学』，大明堂，270頁。
- Mohr, B. (1992) : Fremdenverkehr im Schwarzwald. Geographische Rundschau, 44-5, 296～302。